

渋沢栄一に学ぶ 教育に造詣が深く、 跡見女学校の顧問にも。

2024年から1万円札が「渋沢栄一」に変わります。そして、今、NHKの大河ドラマ「青天を衝け」においても渋沢栄一が跡見女学校の顧問だったことをご存知ですか？ 跡見学園創設者、跡見花蹊先生は渋沢栄一と懇意であったようです。この機会に渋沢栄一が明治時代にどのように活躍したのか、生涯を見てみましょう。

渋沢栄一の生涯



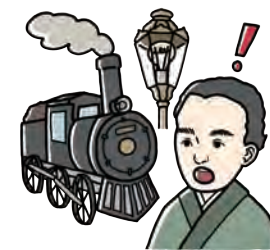
江戸～明治～大正～昭和にわたって日本の礎を作った方なのね！

農家の長男に生まれ 家業を手伝いながら学び、志を持つ

渋沢栄一は1840(天保11)年、武蔵国血洗島村(現在の埼玉県深谷市)の豊かな農家の長男として誕生。幼い頃から「論語」などを学び、また家業の藍玉作りや買い付けで商売の何たるかを学び、人心の掌握術も体得していきました。また、代官の農民を下に見る態度に憤りを感じることもあり、幕末の世を憂えて「尊皇攘夷*1」の思想を持ち、国の政治に関わろうと行動します。



幕府の役人となり渡欧、パリ万博で衝撃を受ける



動乱の中、生きて社会を変えていくことを決意し、一橋家の仕官となります。27歳のとき、征夷大将軍徳川慶喜の弟、徳川昭武について渡欧し、パリ万国博覧会(1867年)にも行きました。電灯やエレベーター、蒸気機関車などヨーロッパの新しい技術に触れて衝撃を受けたことが、栄一の人生を大きく変えます。ヨーロッパ滞在中、日本は江戸時代から明治時代へと変わります。

明治新政府の役人、民間の企業人として新しい産業を立ち上げていく

帰国後、栄一は大政奉還*2により徳川慶喜が蟄居した駿府藩(現在の静岡県)で「商法会所(先駆的な株式会社組織)」を創設し、藩の財政立て直しに取り組みます。その姿が新政府の目にとまり、民部省(その後大蔵省、現在の財務省)の役人となり、税制や貨幣制度、単位の基準、郵便制度などを整えていきます。33歳で大蔵省を辞めた栄一は、民間の実業家として第一国立銀行を設立。また、製紙会社や紡績会社をはじめ500もの会社に関わり、日本産業の基盤を築いていきました。



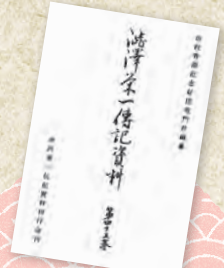
教育機関・社会公共事業の支援に取り組む

栄一は、優秀な人材育成が必要だと考え教育に力を入れました。著書『論語と算盤』に「女性にも男性と同じ国民としての才能や知恵、道徳を与え、ともに助け合っていかなければならない」と記しているように、女子教育を支援しました。また、養育院の仕事に60年近く携わるなど、福祉や医療活動にも力を尽くしました。精力的に生き、1931(昭和6)年、91歳でその生涯を閉じました。

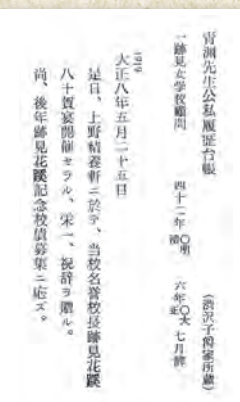


記録に残された 跡見学園と渋沢栄一との関わり

渋沢栄一の伝記を記すための資料を蒐集、編集した『渋沢栄一伝記資料』には「跡見高等女学校」という項目があり、渋沢栄一と跡見女学校、創設者跡見花蹊先生との関係が記されています。



『渋沢栄一伝記資料』渋沢青淵記念財団電門社編、渋沢栄一伝記資料刊行会刊。本編全58巻、別巻全10巻。



青淵先生八秩慶賀台帳 跡見女学校顧問 四十二年(明治) 大正八年五月二十五日 延日、上野精養軒ニ於テ、当校名譽校長跡見花蹊八十賀宴開催セラル、栄一、祝辞ヲ贈ル。尚、後年跡見花蹊記念校債募集ニ応ズ。

8年間、跡見女学校の顧問をしてくださったのね。



第三款 跡見高等女学校

明治四十二年五月九日 是日、日本橋俱樂部ニ於テ、当校創立三十五年記念会並ニ校長跡見花蹊古稀祝賀会開催セラル。栄一祝辞ヲ贈ル。次イデ八月、栄一、当校ノ顧問トナリ、在任大正六年七月ニ至ル。

「この日、日本橋俱樂部において、当校(跡見女学校)創立35年記念会と跡見花蹊校長の古希(70歳)祝賀会が開催された。栄一は祝辞を贈る。その後8月に栄一は当校の顧問となり、大正6年7月まで在任する」

跡見花蹊記念校債にも協力して下さってる！



「この日、上野精養軒において、当校(跡見女学校)名誉校長跡見花蹊80歳の祝賀が開催され、栄一が祝辞を贈った。また後年、跡見花蹊記念校債の募集にも応じた」



2024年からは1万円札の「顔」に

ポイント(内容)

跡見花蹊女史は、若い頃から文芸に秀でていただけでなく、学校を建てて多くの女性たちを教育し、世の中の人で女史の名前を知らない者はいない。女史が、国の学問や芸術の発展に長く貢献されてきたことは、国家のためにも喜ばしいことだ。

渋沢栄一さんって、跡見花蹊先生と同じ年の方だったのね！



跡見花蹊先生八十歳の寿宴での祝辞

人の長寿なるは其人の心力のみに勝れたるを証する所以にして、人生の慶事なれども、其人に伝ふべき德行才芸のなからんには、唯退齢を加へ異数の寿を得たりといふのみにて、めでたさも時間の範囲に止まるべし、若し其人が道に志し芸に遊ぶ者なる時は、其長寿は其事業と共に高きを加ふ。況や其道をもて多くの人を教育し、之を天下後世に伝ふる者なる時は、めでたさも空間に亘りて愈尊かるべし。跡見花蹊女史は、若きより文芸に秀でたるのみならず、学校を建て、多くの淑女たちを教育し、天が下の人々、女史の名を知らざるものなく、知りて其風采を景慕せざるものなし。而して今年八十歳に達せられて、尚健なりと聞く。余も女史と同齡なるが、常に自強息まず、天命を樂むをもて保寿の要訣となす者なり。女史の如きも、同じく此要訣を得られたるものか。女史は既に文芸をもて天下に重ぜられ、又其寿を保ちて門人子弟にかしづかれ、長く久しく国家の文運に貢献せられんとす、これ唯女史の為に祝すべきのみならず、又国家の為に祝すべきことならずや。因りて一言を呈して祝辞となす。

大正八年五月二十五日

男爵 渋沢栄一

【参考資料】こどもくらぶ編『渋沢栄一 人物とこと』岩崎書店、2020年/今井博昭『渋沢栄一「日本近代資本主義の父」の生涯』幻冬舎新書、2019年/小前亮『渋沢栄一 伝 日本の未来を変えた男』小峰書店、2020年 渋沢栄一記念財団ホームページ <https://www.shibusawa.or.jp/index.html> 渋沢栄一デジタルミュージアムホームページ http://www.city.fukaya.saitama.jp/shibusawa_eiichi/

*1) 尊皇攘夷:幕末から明治維新にかけて志士たちの間に広まった「天皇を尊び、外国人を追い払え」という思想。

*2) 大政奉還:1867年、徳川慶喜が政権を朝廷に返し、鎌倉幕府以降約700年続いた武士による政治が終わりを告げた。